

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2019年5月自己点検委員会で確認した。

大項目	中項目	平成30年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○第一の基本方針である、TPCの育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取組が工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。 ○教科指導におけるアクティブラーニングの手法の導入は、年々着実に前進が見られるが、入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫が求められていることから、教務委員会や学生委員会を中心とした取り組みに引き続き期待したい。 * TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	校長	■授業外でのTPCの指導については、学校行事や日常的なマナー指導の場なども活用し、引き続き教務委員会や学生委員会を中心に具体的な取組を推進する。
			継続	教務委員会	■授業公開の機会等を利用して、アクティブラーニング型授業の手法に取り組んでいる授業の参観を推奨し、当該手法が有効であり、かつ可能な教科から徐々に導入の推進を図る。
			継続	学生委員会	■学生生活ガイドに記載の「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー」および「社会人になるため、在学中から意識したい校内でのマナー集」を使用して、各担任から4月のオリエンテーションの際に指導してもらう。 ■体育祭と学園祭では、学生に役割と可能な部分の裁量権を与え、主体的に動き、創意工夫ができるようにする。
	(2)退学防止	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。 ○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。 ○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。 ○重点目標として取り上げてきた退学防止への試みが実を結び、退学者が減った。今後もさまざまな面で学生をサポートして、退学者をゼロに近づけるようにしていただきたい。(30年度総評) ○平成30年度生に行ったAO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。	継続・新規	校長	■年度初めに数値目標を示した上で、記録の整理・分析と情報共有をしっかりと行い、引き続き退学防止のための活動を推進する。また、一部の学科で試行して成果を挙げた方法を、他学科にも伝え、防げる退学は極力防ぐ。
			継続	校長	■2019年度生については、AO入試に加え、看護科の公募推薦による入学予定者にも入学前オリエンテーションの対象を広げた。今後も、対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大して実施することを検討する。
			継続	医療秘書科	■スクーリングの場を活用し、入学予定者間、教員や上級生との交流を促す。また、入学後の学校生活に対する不安を解消するとともに、学習への興味喚起につなげる。
			継続	医療マネジメント科	■AO入試課題である作文等により、入学動機や卒業後の展望について確認をする。 ■入学前指導プログラムであるスクーリングは成果が出ているので、改良を加えながら引き続き実施する。
			継続	くすり・調剤事務科	■効果は今後検証していく。
			継続	介護福祉科	■今後、介護事業所においても外国人介護職の増加が見込まれるため、在学中から、日本人学生と留学生がお互いが尊重し合い、関わりが持てるよう、円滑なコミュニケーション技術の構築を図る。 ■スクーリングのプログラムの検証をし、今後も介護教育への導入へと繋げられるよう内容の検討をする。 ■入学前とのミスマッチがないよう、オープンキャンパスでは丁寧な学科説明をし、入学後は適宜、面談等を実施し状況を把握する。
			継続	看護科	■2018年度より公募推薦合格者が参加した。交流が図れ安心感につながっていたようなので、参加の継続を考えて行く。
1 教育理念・目的・育成人材像	1. 理念・目的・育成人材像 (1)理念・目的・育成人材像は定められているか	○専門学校は入口と出口が大切である。入口では入試のフォローや留学生についての準備、教育については研修や授業公開で努力している。出口についても2-40、卒業生フォローを充実していこうとしている。入口、出口、教育の3つのステージについてバランスよく考え、実践されている。引き続き、質を高めていくことに期待している。(30年度総評) ○本校が目指す人材の育成充実に向けて、学科再編等の検討を引き続き進めてほしい。 ○各学科における3つのポリシーの再確認をしっかりと行って、引き続きそれぞれの教育を進めて欲しい。	新規	校長	■入学者の受入・教育課程の編成・卒業認定について、教育を取り巻く環境の変化との整合を、各学科において引き続き図り、時代に合った質の高い職業人教育を提供する。
			継続	校長	■高校新卒者を主な対象とする専門課程の教育に限定せず、外国人や社会人も対象とした、本校の強みを生かせる新規の教育事業を具体的に推し進める。
			継続	校長	■学科ごとに3つのポリシーの再確認はされつつあるので、それらに基づいた具体的な計画を推進する。

			継続	字幕制作・速記者養成科	■学科会議において3つのポリシーを提示し、兼任講師の理解を得られるよう努める。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に基づき、全教員が3つのポリシーを踏まえ、同じ方向性を持って教育活動に取り組む。
			継続	医療マネジメント科	■学科運営計画に基づいて、学科教員等に徹底しそれを実践する。
			継続	診療情報管理専攻科	■学科運営計画に基づいて、学科教員等に徹底しそれを実践する。
			継続	医師事務技術専攻科	■学科運営計画に基づき、全教員が3つのポリシーを踏まえ、同じ方向性を持って教育活動に取り組む。
			継続	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、積極的な参加、多くの知識を身につける、課題解決の能力演習などを通して、3つのポリシーを達成していく。
			継続	介護福祉科	■学科の3つのポリシーを教員間で再確認し、教育の向上を目指す。 ■2年間の教育で「求められる介護福祉士、目指すべき像」に向けた指導をする。
			継続	鍼灸医療科	■3つのポリシーについて、4月の学科会議や日々の担任会にて教員間でしっかりと情報共有と確認を行い、学生指導の強化を図る。
			継続	看護科	■教育の質的転換を図る上で、①看護の楽しさを深める力のある人材獲得(アドミッションポリシー)として、指定校推薦者の複数獲得を図る。また、②個々の教員はカリキュラムの中で国家試験を意識して授業展開を工夫する(カリキュラムポリシー)。③実践力が備わり学び続ける人材の輩出(ディプロマポリシー)が来ているのか、年度末に評価していく。
(2) 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。		継続	字幕制作・速記者養成科	■関連業界との教育全般にわたる連携のもと、一人一人の学生の状況を見極めながら業界ニーズに適合した人材育成に努める。
			継続	医療秘書科	■医療機関従事者による特別講座等を開催し学生個々の職業観醸成を促す。 ■医療機関見学の機会を学生向け及び教員向けに用意し、職種ごとの役割と業務内容に対する理解を深める。
			継続	医療マネジメント科	■病院事務実習指導者、採用担当者、病院職員・業界団体職員である特別講演講師・兼任講師、専門領域に就職した卒業生から情報収集をするとともに、学生にとっては将来について具体的な構想とするための指針とする。
			継続	診療情報管理専攻科	■管理士実習指導者、採用担当者、病院職員・業界団体職員である特別講演講師・兼任講師、専門領域に就職した卒業生から情報収集をするとともに、学生にとっては将来について具体的な構想とするための指針とする。
			継続	医師事務技術専攻科	■実際に医師事務作業補助者として勤務している方の授業を予定している。 ■複数の医療機関における実習を予定している。
			継続	くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせ会を実施している。
			継続	介護福祉科	■業界と連携し、最新の介護の動向や情報を知り、カリキュラム編成や授業に反映していく。また、業界に協力をいただき特別講義等を通して授業の充実を図る。 ■2019年度医療的ケア実地研修実現に向け、引き続き準備を進めていく。
			継続	鍼灸医療科	■専門分野の学会や研修会へ積極的に参加し、そこで得た情報や動向について教員間で共有し、授業等にも反映させる。 ■鍼灸分野以外でも連携して活かせる分野をカリキュラムに導入し幅広い鍼灸師を育成する。 ■臨床実習Ⅱでは、外部臨床施設の拡大を図る。
			継続	看護科	■実習施設とは、実習協議会及び実習指導者会を通じて連携をはかり、近年の学生の特徴や、指導方法について共通理解していく。 ■ホームカミングdayで就職後の状況についてアンケート調査を行いそれらを各病院にバックし継続教育に活かしてもらう。
(4) 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○専門職大学、専門職短期大学が開校されることにより、本校にどのような影響があり、どのように対応していくのかを考えていくことが望まれる。 ○外国人の支援や社会人の学び直しは社会が求めていることであるため、先を見越しての運営をぜひ進めていただきたい。(30年度総評)		新規	校長	■専門職大学・専門職短期大学の動向については、引き続き注視していきたい。また、外国人の支援や社会人の学び直しの教育については、学校としてすでに具体的な計画の準備を進めている。
2 学校運営			新規	校長	■兼任講師に向けては、4月の全教員会や学科会議だけでなく、日常的に働きかける機会をさらに増やす。
	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	新規	校長	■2019年度も前年度に引き続き、専門学校の事業計画と運営方針において、重点目標の一つとして掲げている。
	3. 組織運営	○目標達成に向け、教職員が協力、連携した効率的な校務分掌による組織運営を円滑に行ってほしい。	新規	校長	■2019年度も前年度に引き続き、専門学校の事業計画と運営方針において、重点目標の一つとして掲げている。
	6. 情報システム	○新学事システムにおいても、引き続き個人情報情報の漏えい防止にしっかりと取り組むとともに安全かつ効率的に運用してほしい。	新規	事務局長	■学園の個人情報保護に関する方針、情報セキュリティ委員会による対策に基づき、安全かつ効率的な運用を行う。

3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○PDCAサイクルに基づく職業実践教育の実現に向けて、各学科の教育活動における具体的な応用を続けてほしい。 ○医療事務分野で始めるがん登録など、現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても元に戻ることでできる力も身につけるために、専門学校の2・3年間で何ができるかを引き続き考えてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があるとと思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続・新規	校長	■引き続き職業実践教育の視点から、各学科の学科運営計画の策定と年度末点検、カリキュラムの改定等において、PDCAサイクルによる改善を推進する。
			継続・新規	字幕制作・速記者養成科	■技能教育を通じて学業への主体的な取り組みを促すとともに復元力や持続力の向上に配慮する。
			継続・新規	医療秘書科	■「キャリアデザイン」等の授業で、2年間の学習目標と卒業後イメージした長期的目標を学生個々に考えさせる。 ■将来、実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。
			継続・新規	医療マネジメント科	■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について、改めて明確にし徹底する。 ■「キャリアデザイン」その他の科目を活用、日常における指導、病院事務実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を実践する。 ■医療業界の動向・ニーズについて把握し、それをカリキュラムに反映させる。
			継続・新規	診療情報管理専攻科	■年度当初のオリエンテーション等において、学科やそこに在籍する学生の目標について、改めて明確にし徹底する。 ■日常における指導、管理士実習による専門領域・組織での実体験により、社会人化教育を実践する。 ■医療業界の動向・ニーズについて把握し、それをカリキュラムに反映させる。
			継続・新規	医師事務技術専攻科	■将来、実務において必要とされる応用力を身につけるための基礎力定着を意識した授業進行を心がける。 ■医師、看護師との適切な接し方を身につけさせる。
			継続・新規	くすり・調剤事務科	■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力などを身につける。 ■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげていく。
			継続・新規	介護福祉科	■2021年度新カリキュラムでは、「実践力」に即した教育を5つの観点(チームマネジメント能力・地域との関わり・認知症ケア・介護過程・医療との連携)を織り込んだ内容で編成していく。 ■専門性教育だけでなく、社会性教育、実践力を養っていけるよう指導する。
			継続・新規	鍼灸医療科	■関連企業や治療院とは、これまで以上に意見交換の場を設けて連携を図る。 ■臨床実習Ⅱでは外部臨床施設を拡大する。臨床の現場から医療体制を理解し今後の鍼灸師像を学ぶ。 ■学生のモチベーションレベルに合わせた、少人数あるいは個々の対応を引き続き実施する。
			継続・新規	看護科	■主たる実習施設の新人看護師研修とつなげて「看護実践基礎力」、「成長欲求」、「生活力」の育成が図れているか、カリキュラムの評価をしていく。 ■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図って行く。
		継続	校長	■検定対策等、コマシラバスが有効と思われるケースがあれば、具体的な検討を、引き続き学科に働きかける。	
		継続	字幕制作・速記者養成科	■人前で話すことについては、オリエンテーションや「キャリアデザイン」の授業を活用していく。	
		継続	医療秘書科	■話すことへの苦手意識を取り除くため、まずはグループワーク等で少人数の中で話す機会を設ける。	
		継続	医療マネジメント科	■コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業については既に設けているが、引き続き実施する。 ■特に4年生については、カリキュラムにおける重要項目であり、緻密に実施する。	
		継続	診療情報管理専攻科	■コミュニケーション力育成・学生参加発表型の授業については既に設けているが、引き続き実施する。	
		継続	医師事務技術専攻科	■複数の医療機関における実習の場で新たな関係構築の経験を積むことで対話力を向上させる。	
		継続	くすり・調剤事務科	■「ドラッグストアのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループ討議・発表、また個人発表などで自分の考えをまとめて発表の能力をつけさせ、就職活動に役立てる。	
継続	介護福祉科	■発表形式の授業やケーススタディ発表会等を通し、対話力の向上を図っていく。			
継続	鍼灸医療科	■2年生は外部臨床施設での実習を設けている。臨床現場での対話力や対応力を学ぶ場としている。 ■3年生は症例報告会での発表の場を設けている。			
継続	看護科	■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。			
新規	介護福祉科	■「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」に基づき、教育課程編成委員会での意見や先行する大学の情報も入れながら、新カリキュラムへの準備を進める。 ■各領域のねらいや教育内容の目的、主旨を踏まえ、相互の体系的な関連性・順次性を考慮した教育内容にしていく。			
(2)教育課程について、外部の意見を反映しているか	○業界出身の兼任講師との打ち合わせ、卒業生や就職先との懇談などから得た情報をカリキュラムに生かす努力を引き続き行ってほしい。 ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作ってほしい。	新規	字幕制作・速記者養成科	■授業運営に関して業界講師と日常的に打ち合わせを行う。 ■カリキュラム見直しの際には業界関係者の意見を伺い、カリキュラム編成に生かすようにする。	

		新規	医療秘書科	■就職先、実習先との接点を増やし、医療機関の現状を認識し、将来を見据えたカリキュラム編成を継続して検討する。 ■卒業生の協力によるイベント開催を検討する。
		新規	医療 マネジメント科	■両委員会だけでなく、学会、研修会、研究会、日本病院会説明会、医療機関、専門領域の外部講師、実習・求人先から情報収集し、それをカリキュラム策定に反映させる。
		新規	診療情報管理専 攻科	■両委員会だけでなく、学会、研修会、研究会、日本病院会説明会、医療機関、専門領域の外部講師、実習・求人先から情報収集し、それをカリキュラム策定に反映させる。
		新規	医師事務技術専 攻科	■就職先、実習先との接点を増やし、医療機関の現状を認識し、将来を見据えたカリキュラム編成を継続して検討する。
		新規	くすり・ 調剤事務科	■年2回の学科会議による業界出身の兼務講師からの情報やアドバイスを、就職先および学生採用予定先の企業人事採用担当者との定期的な打ち合わせ会などを通して、カリキュラム作成に生かしていく情報を継続して入手している。引き続き取り組んでいく。
		新規	介護福祉科	■カリキュラム編成は、教育課程編成委員会での意見や兼任講師、業界、実習施設等の情報を取り入れ進めていく。
		新規	鍼灸医療科	■臨床実習Ⅰ外部見学実習のヒアリングの結果を臨床実習Ⅱ外部臨床実習へ反映させる。実習の目的や評価に対して共通認識のもと進めていく。
		新規	看護科	■卒業生からの職業説明会及び、新人看護職員研修制度に関わる厚労省ガイドラインの説明を授業の中に取り入れて行く。
		新規	CSC	■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生就職報告会や日頃の学校への訪問したものへのアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。
(3)キャリア教育を実施しているか	○キャリアサポートプログラムは、平成28年度からはキャリアサポートセンター(CSC)と進路指導協議会が連携して、教育課程編成委員会や本委員会の意見、提案なども参考に、時代の変化に即し、学生が取り組み易く、積極的に関わられるという観点を踏まえた改編を開始している。さらなる取り組みに期待したい。	継続	CSC	■2018年度、進路指導協議会と連携してキャリアサポートプログラムの内容について見直しを行った。内容はプログラム全体を改編するものとなっていて、より学生が興味を持って取り組むことができ、労働に関する知識や就職に意欲を持てる内容とした。2019年度はこのプログラム変更の検証を行い更なる改善をしていきたい。
		継続	進路指導 協議会	■各学科と連携し、継続的に、キャリアサポートプログラムや「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を見直し、社会の変化や学生の状況に合わせ速やかに対応する。
(4)授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用する意味からも、引き続き定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会	■2020年度が改訂年度である。2019年度中に自己点検・自己評価委員会において委員に協議をしていただき、その結果をまとめる。
	○授業アンケートは相対的に見ると「授業中に居眠りはしていない」「教員は見やすさ、わかりやすさに配慮して工夫しながら授業を進めている」の数値が若干低い結果である。ここ数年、教員研修が活発化してきて授業改善にも取り組んでいるが、この2点も他項目の数値に近づくよう授業の質の向上に努めていただきたい。(30年度総評)	新規	字幕制作・速記 者養成科	■学生の授業時等の状況について教員間で情報交換を行い、問題意識の共有化を図る。
		新規	医療秘書科	■講義型授業においてもアクティブラーニングスタイルを取り入れるなど、一方的な授業進行にならないよう留意する。
		新規	医療 マネジメント科	■授業アンケート結果がデータとして絶対的なものであるとは必ずしも考えてはいないが、全体的にその詳細について把握し、具体的な対応策を検討した上で、場合により各担当教員と情報共有して改善策を実践してもらう。
		新規	診療情報管理専 攻科	■授業アンケート結果がデータとして絶対的なものであるとは必ずしも考えてはいないが、全体的にその詳細について把握し、具体的な対応策を検討した上で、場合により各担当教員と情報共有して改善策を実践してもらう。
		新規	医師事務技術専 攻科	■学習を深める学科であり、また少人数クラスのため積極的な姿勢の学生であることを期待するが、一方的な授業進行にならないよう留意する。
		新規	くすり・ 調剤事務科	■授業の中間くらいでの小休止、アイスブレイク、エピソード、小テスト実施、双方向授業など、居眠り防止策を各教師に伝えて実施している。これらを継続していく。
		新規	介護福祉科	■授業アンケート結果を学科内、個別で振り返り授業の改善に努める。
		新規	鍼灸医療科	■学生のモチベーションアップ・維持のために、授業ごとに学習の目的を明確に伝え、将来に役立つ内容であることを十分に理解させる。 ■eラーニングやワークシートの活用および演習を取り込んだ授業展開を取り入れていく。
		新規	看護科	■授業中の居眠りに関しては、教員間で統一した指導が必要と考える。また、担任面接を通じ原因を明らかにして対策を考える。
4. 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	■国家試験受験について、試験までの流れや学習法、対策等についての説明会を継続していく。模擬試験の結果を分析し個々に合った指導をする。 ■留学生は初めての国家試験受験に臨むため、サポート体制を作っていく。
		継続	鍼灸医療科	■受験資格要件は明確にし、文書で学生、関係者や保護者に配布している。 ■国家試験の問題は学科内で出題傾向や解答率など分析し、情報共有している。各教科担当は授業に反映し指導にあたる。 ■模擬試験実施後、個人成績表を作成し、個々に応じた指導に当たる。

			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。 ■卒業要件としての単位修得に関わる内容は学生ハンドブックに記載し、学年が進むごとまた単位に絡む状況発生時に随時学生に及び保護者に説明している。 ■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施。3年次には少人数のサポート体制をとって指導を固めている。3年次では8回の模擬試験を実施しその結果を分析して、サポートメンバーの組み換えや指導方法の見直しを行っている。
5.教員・教員組織	○専任教員と兼任講師の情報交換を一層進めて、学校全体が良くなっていくように両者の連携、協力による努力を今後も続けてほしい。 ○(その手段の一つとして)全体議論の場である学科教員会を授業期毎に開催することを引き続き検討してほしい。		継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■各職業分野での人材ニーズが変化しつつある時代において、兼任講師の方々の協力は極めて重要と考えている。兼任講師も含めた学科会議については、なるべく多くの兼任講師に参加していただくための日程調整がかなり難しいのが現実だが、年度内の複数回開催について各学科に働きかける。
			継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■兼任講師との情報交換は一定の機会を確保する。 ■授業期毎の教員会開催は関連業界事情により難しい。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■担任会、学科教員会を定期的に開催する。 ■半期ごとの学科会議開催を検討する。 ■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を設ける。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に実施する学科会議を活用する。 ■学科教員会について、定期的に実施する。 ■学科教員間の打合せ、学科教員と兼任講師との情報交換・共有について、適宜実施する。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に実施する学科会議を活用する。 ■学科教員会について、定期的に実施する。 ■学科教員間の打合せ、学科教員と兼任講師との情報交換・共有について、適宜実施する。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■退学等学籍異動以外の事項に関しても常勤・兼任教員間での意見交換の場を設ける。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■兼任講師の授業出席日に、授業担当クラスの状態、遅刻欠席状況、授業態度、テスト結果などの情報交換をしている。また、学科内で教師との連絡打ち合わせをこまめに実施している。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■教員、兼任講師間で情報の共有を適宜、図る。 ■学科教員会での情報交換と授業進度表を継続していく。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■鍼灸医療科の教員全体でメーリングリストを作成している。適宜、情報の共有を図っている。また、授業日には担任が中心となり専任教員と直接、対話をしていく。 ■4月の学科会議に不参加の専任教員には、授業開始日に十分に説明し、理解や情報の共有を図る。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■担任と兼任講師で情報の共有を図り、クラス運営に反映させていく。 ■科としての決定機関である、学科教員会での情報共有を引き続き進める。
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得の目標は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科と教科系を軸に、学科運営計画の年度末点検等で、これまでの取組と成果を検証しつつ、引き続き推進する。
			継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■校内認定資格を一つの指針として教育を推進する。
			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の取得者増加に努める。 ■診療報酬請求事務Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおいて進捗別クラス編成を継続実施する。 ■卒業時点での診療報酬請求事務能力認定試験合格者数の増加に努める。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■年度当初に学科目標を設定し、それについては担当する専門領域の教員に徹底した上で対策を実施し、その結果について検証、その後の対策を決定・実施する。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■診療情報管理士認定試験の資格取得が最大の目的である。そのためには授業だけでなく、各種対策を実施する。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助技能認定試験の全員合格を目指す。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、違う角度から説明、演習問題などにより、学生の苦手意識を払しょくして、より理解を深めることで資格・検定の合格率向上に役に立っている。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■全員が国家試験の合格を目指せるよう、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■福祉事務管理技能検定資格取得の意義を伝え、兼任講師と連携し資格取得を目指せるようサポートしていく。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験模擬試験の内容や、昨年見直した外部模試の検討を継続する。 ■1、2年次の未修得科目や成績不振の学生には、学習プランを作成し履行させる。 ■3年生には4月より空き時間を利用した学習の習慣付けを実施する。 ■2年次より外部模試を実施し、国家試験に対する意識付けをしている。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■国家試験の合格率をupするため、教員間の連携を図り取り組んでいく。 ■定期的に担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。
3. 卒業生の社会的評価		○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。	継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■業界関連イベント等の機会を捉え、卒業生や就職先からの情報を収集する。

			継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■校友会との連携や卒業生ネットワーク(Gmail等)を活用して卒業年次ごとに評価確認の準備をする。 ■各就職先への卒業生就業状況調査の実施を検討する。
			継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■病院事務実習先、求人・就職先、専門領域で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。
			継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■管理士実習先、求人・就職先、専門領域で就業する卒業生、各委員会から情報収集をする。
			継続	医師事務技術専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■各就職先への卒業生就業状況調査の実施を検討する。
			継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■2019年6月ごろに、ホームカミングデーを開催して、卒業後の就職状況について、聞き取り、コメントなどを全員で聞いたり、またほかの卒業生からのアドバイスを受けたりして、相互の情報交換をする。また、その結果を個人名は記述せず、全体をまとめた資料を作成して、就職先へ送付してフィードバックすることなどにより、卒業生の継続的な勤務の維持に役立てていく予定である。
			継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業生支援講座以外で、実習先で就職している卒業生から情報収集をし、授業や介護実習に反映していく。
			継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■鍼灸師像として、広い視野を持った人間力が就職先ではもてられており、学びの場として、「臨床実習Ⅱ」では外部臨床施設を取り入れており、さらに拡大を図る。 ■卒業生支援講座や学科交流イベントの機会を通じて、卒業生からのヒアリングの場としている。
			継続	看護科	<ul style="list-style-type: none"> ■ホームカミングdayを有効活用して、卒業生の声を拾っていく。ホームカミングdayは定着してきているので、2019年度以降も実施の予定。
			継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく。
		○本校卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。 ■2015年度生のGメールでの調査を昨年度末に実施した。今後調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく必要がある。
5 学生支援	1. 就職等進路	<p>○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい。</p> <p>○進路指導協議会を通じて、各学科とキャリアサポートセンターの連携を推進し、社会状況の変化に迅速に対応した学生への就職指導・活動支援を引き続き進めてほしい。</p> <p>○キャリアサポートセンター担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。</p>	継続	CSC	<ul style="list-style-type: none"> ■2018年度、特に医事系において大学病院への正職員採用や国立病院、日赤への採用といった大規模病院への採用が大幅に増えた。2018年度の実績ある病院と連携し、2019年度への採用へ繋げていく。 ■2018年度、進路指導協議会と連携し、キャリアサポートプログラムの再編を進めてきた。2019年度は、この改編の結果を検証していく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。
		○入学後、学力傾向を把握するため、共通基礎学力テストを実施し、教員向けの授業方法の検討資料としている。この資料を就職指導にも生かすことを今後の課題としているが、分析の方法を更に工夫して有効に活用してほしい。	継続	進路指導協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■各学科と連携し、継続的に、キャリアサポートプログラムや「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を見直し、社会の変化や学生の状況に合わせ速やかに対応する。
		○入学後、学力傾向を把握するため、共通基礎学力テストを実施し、教員向けの授業方法の検討資料としている。この資料を就職指導にも生かすことを今後の課題としているが、分析の方法を更に工夫して有効に活用してほしい。	継続	教務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■教務委員会では共通基礎学力テストの実施、分析、報告までを担当する。経年変化、入学後の成績との相関、学科毎の特徴などに着目した分析を継続する。就職活動に活かすために必要なデータ抽出の希望があれば対応する。活用方法についてはキャリアサポートセンター、進路指導協議会、および各学科での課題と認識している。
		○入学後、学力傾向を把握するため、共通基礎学力テストを実施し、教員向けの授業方法の検討資料としている。この資料を就職指導にも生かすことを今後の課題としているが、分析の方法を更に工夫して有効に活用してほしい。	継続	進路指導協議会	<ul style="list-style-type: none"> ■共通基礎学力テストの結果を踏まえ、各学科と連携し、学習指導や就職活動支援に役立てる。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的に、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。	継続	学科長会議	<ul style="list-style-type: none"> ■全学科の学籍異動等・学生数の動向を把握・情報共有することにより、退学防止対策策定のための一助とする。 ■学生委員会からの報告をベースとして、退学防止対策を検討する機会とする。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	学生委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■退学防止調査票を前期2回、後期2回の4回、担任に提出してもらい、退学の予兆を早期に察知し、それを学科長にフィードバックし、退学抑制を図る。 ■hyper-QUの結果と退学との関係について、分析する。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	広報室	<ul style="list-style-type: none"> ■次年度も引き続き、オープンキャンパスで個別相談等を通じて十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	字幕制作・速記者養成科	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパス等の機会においては職業理解の促進を前提として説明を行う。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	医療秘書科	<ul style="list-style-type: none"> ■アドミッションポリシーをはじめ、学びや卒業時点までの目標を説明し、理解を得る。 ■カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを明確に伝え、入学だけでなく卒業後の自身をイメージできるよう工夫する。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	医療マネジメント科	<ul style="list-style-type: none"> ■学科紹介、説明会、懇談においては、改善させながら引き続き、学科全体についてのみならず、できるだけ学科の実像・実態を分かりやすく伝えて、その上で入学を検討してもらう。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	診療情報管理専攻科	<ul style="list-style-type: none"> ■医療マネジメント科説明・紹介の一環として、同時期に同様のやり方で実施する。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	医師事務作業補助者として活躍するイメージを思い描かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ■医師事務作業補助者として活躍するイメージを思い描かせる。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	くすり・調剤事務科	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンキャンパスに参加した生徒には、2回以上の参加や授業見学、他の学校、他の学科への見学などを勧めて、ミスマッチがないようにアドバイスをしている。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	介護福祉科	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学防止に向け、入学前のオープンキャンパスでの説明が重要となる。入学動向が維持できるよう入学前からのフォローをしていく。
		○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。	継続	鍼灸医療科	<ul style="list-style-type: none"> ■募集停止のため、該当しない。

			継続	看護科	■オープンキャンパスの時期、内容については随時「入試委員会看護科部会」にて話し合い、決定事項を学科内におろして協力を求めた。入学後の生活のイメージ化が図れる取り組みが更に必要と考えるので、2019年度は視聴覚媒体の作成に着手する。
4. 学生生活 (1) 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	○緊急時における経済的支援策など、公的な制度と合わせた本校独自の制度については、国による新たな支援制度の進捗に合わせて、本校でも可能な支援策を検討することに期待したい。	継続	校長		■給付型奨学金など、公的に整備される予定の制度と合わせて、在校生に対する本校独自の経済的支援策等を、引き続き具体的に検討する。
5. 保護者との連携	○保護者会は、丁寧な説明や意見交換から生まれる安心感が、本校の教育の信頼に直接繋がるものでもあることから、実施あるいは検討と実現に向けた取り組みを引き続き進めてほしい。	継続	校長		■本年度も4月の入学式終了後の会場で、保護者に対して学校説明を行い、学生指導への協力を呼び掛けている。また、昨年度に一部の学科で開催された入学後の保護者会については、各学科の個別の事情を考慮し、学科の課題として具体的に検討してもらうことにしている。
		継続	字幕制作・速記者養成科		■保護者とは連絡や面談等、必要に応じて個別対応により連携する。
		継続	医療秘書科		■1年生対象保護者会を開催する。 ■保護者への情報提供の内容や方法を検討する。
		継続	医療マネジメント科		■オープンキャンパスでの保護者説明会において、学科の状況を伝えて理解を得るようにする。 ■問題がある学生については、教職員間で連携した上で、速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。
		継続	診療情報管理専攻科		■問題がある学生は稀少であるが、仮に発生した際は速やかに保護者に連絡して対処し、必要に応じて保護者とも面談する。
		継続	医師事務技術専攻科		■保護者との適切な関わり方について検討する。
		継続	くすり・調剤事務科		■学生との個人面談を頻回に行うことで、早期の問題点を解決している。しかし、どうしても保護者との話し合いが必要となった場合は、個別に保護者へ連絡を取り、話し合いをすることで、解決を図っている。今後もこの方法を継続していく。
		継続	介護福祉科		■引き続き、1、2年生合同保護者会を実施し、学校と家庭との連携を図る。また、希望者には個別面談を実施する。
		継続	鍼灸医療科		■在学生が入学する際、保護者もオリエンテーションにご参加いただき、学園生活の理解と協力を周知している。 ■学園祭を利用した保護者面談を継続する。特に3年生の保護者には受験資格要件を明確にし、受験までの流れを文書で示し周知している。
		継続	看護科		■各担任は保護者との連携を図っていく。社会人学生であっても、保護者の意見を確認し進路の決定に携わっていく。
	○保護者との連携は、学科ごとの検討だけではなく、学校全体としてのシステム作りも検討してほしい。	新規	校長		■退学防止のための保護者との連携は、問題発生時においては全校的に機能しているが、問題発生時以外の学校全体としてのシステムについても、学科長会等の場で改めて検討したい。
	○成績等の報告についても個人情報の保護をはじめとした必要な対策をとった上で、実施に向けた準備を進めることに引き続き期待したい。	継続	校長		■保護者への成績等の報告については、主に高校新卒の入学者を対象に、学科ごとに実施を検討することになっている。
	○授業公開についても、教員研修としてだけでなく、子どもの勉強内容や学校の様子を保護者に見ていただくものと位置づけた取り組みとして行ってみることも引き続き検討してほしい。	継続	事務局長		■保護者への成績の報告については、リスクの低い送付方法とコストについて、引き続き実施に向けて検討を行う。また、保護者に向けた情報発信については、学科ごとに実施を検討する。
	○授業公開についても、教員研修としてだけでなく、子どもの勉強内容や学校の様子を保護者に見ていただくものと位置づけた取り組みとして行ってみることも引き続き検討してほしい。	継続	校長		■保護者会の実施と併せて、実施可能な学科については、開催することを検討したい。
6. 卒業生・社会人	○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。 ○卒業生支援講座については、卒業生のニーズ把握に着眼点があると思われるので、引き続きGメールなどを使っての調査やPR方法を工夫して参加者の増加を図ってほしい。 ○卒業生支援講座は、卒業生に対するリスペクトが足りない部分があると感じた。AO入試の入学前指導プログラムと同じように、学校全体で考えて取り組んでいただきたい。(30年度総評)	継続	CSC		■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。より積極的に既卒者へのアプローチを行っていききたい。 ■ホームページを通じた卒業生への就職支援にも力を入れ、卒業生がより分かりやすいものへ改善していききたい。 ■2018年度、Gメールを通じての転職相談等も受付けており、実際にあっせんを行い内定した例もあった。2019年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談・あっせんを行っていききたい。
		継続・新規	校長		■卒業生支援講座については、企画室が運営統括する仕組みに改め、卒業生の学びのニーズを把握し、社会人(既卒者)対象の学び直し教育のプレ講座との位置づけで、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。
		継続・新規	CSC		■2018年度、卒業生支援講座について主にCSCスタッフで企画・実施を行い、ある程度の卒業生の参加者を集めることは出来たが、あまり伸びなかった部分があった。2019年度は、卒業生支援講座の企画についても学校全体で取り組む必要がある。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していききたい。
		継続・新規	教務委員会		■卒業生支援講座については、2019年度から企画室が中心となり進めるが、運営には引き続き協力する。
		継続・新規	校友会事務局		■2018年度は卒業生支援講座の開催案内を校友会報第49号で広報した。また、講座案内チラシを作成し、同封で送付した。支援講座に運営に当たっては講師料等の費用を校友会より助成した。校友会ホームページを3月1日に開設したため、2019年度の講座については、こちらも活用して広報していく。
6 教育環境	1. 施設・設備等	○本校の教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーの目標などの検討が引き続きの課題である。	継続	事務局長	■授業での必要性や学生の要望を把握し、段階的に整備を進める。バリアフリー化は予算規模も大きくなるため、補助金の利用も考慮に入れ検討する。

	2.学外実習、インターンシップ等	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。	継続	CSC	■各学科と連携し、インターンシップ専攻生のフォロー体制の充実に努めている。
			継続	医療秘書科	■月間報告書の記載内容を速やかに確認する。 ■登校日設定の頻度やメニューを再考する。 ■Gmailを利用したフォロー方法を検討する。
			継続	医療マネジメント科	■キャリアサポートセンターとの連携を基本として、登校日、個別連絡・面談も活用して対応する。 ■月間報告書等を活用する。
	3. 防災・安全管理 (1)防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	○課題としている災害発生時の学内待機、近隣の被災者受け入れなどについては難しい面もあるが、引き続き近隣との連携をできるところから整備を進めてほしい。 ○防災マニュアルには神田川が決壊した際の対応についても記すことが望まれる。	継続・新規	事務局長	■自治体の災害発生時の体制を把握し、本校生の安全を第一に、被災者の受け入れ体制を検討する。 ■水害の際の対応についても防災マニュアルに掲載する。
	(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。 ○授業中の事故等に関する共通のマニュアルなどの整備が求められる。	継続	学務課長	■2018年度は多数のインフルエンザ罹患者が発生したため、2019年度は保健室だよりで早めにインフルエンザ予防についての情報を学生や教職員に提供していく。 ■アルコール消毒液や嘔吐物処理キットを校内に準備して、感染防止を図る。 ■事故対策マニュアルを作成するかどうかを検討するために、まずは考えられる事例を教職員から集める。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○本校ではホームページ上で積極的に情報公開を進めているが、高校における専門学校の理解が必ずしも進んでいないのが現状と言われている。より理解を深めるためには、例えば就職であれば就職データだけでなく、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供に向けた具体的な検討が引き続き望まれる。	継続	広報室	■くすり・調剤事務科の職業紹介を中心にしたリーフレットを制作し、本年度の高校訪問時に高校教員への説明資料としても活用を図っていく。
			継続	募集広報協議会	■2020年度生募集活動の進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画を作成し早めの準備を心がける。 ■高校へは、本校卒業生の活躍フィールド等を明確に示す。
			新規	広報室	■コンセプトとなっている“変わり続ける社会からずっと必要とされるあなたを”は、入学案内書、各種媒体誌でも使用している。2019年度についても継続して活用していく。
			新規	募集広報協議会	■入学対象者への情報提供がそれぞれの学科情報だけに偏重するのではなく、学校コンセプト等々のツールを使って全体のことも同時に理解されるよう工夫する。
			継続・新規	広報室	■高校教員には、独自訪問の際に医療事務の社会的ニーズを、医師事務作業補助者、診療情報管理士の話を中心にアピールしている。また自らが自信を持って説明ができるよう、勉強会に参加するなど、知識の獲得に努めており、2019年度についても積極的に取り組む。
			継続・新規	募集広報協議会	■専門学校で学習する意義と本校卒業後の活躍フィールド等を明確にし、情報提供の仕方を工夫する。
			新規	広報室	■2020年度生の入学案内書、募集要項については、鍼灸医療科が募集停止となったため制作が不要となった。キャプションライター養成科の募集要項については、合冊で編集し改善を図った。
			新規	広報室	■教育研究誌の発行に長年取り組んでいることを認知してもらえるよう、案内書やホームページ等での紹介を検討し、反映していく。
			新規	募集広報協議会	■学生との関わり以外での教員の諸活動を紹介することも含め、本校を理解してもらう方法を検討する。
			継続	広報室	■学科と連携して継続して実施する。
			新規	校長	■募集に関する意見と対策については、広報室と各学科、また募集広報協議会や教職員全体会等において随時、喫緊のテーマとして採り上げ、なるべく早く対応することとしている。
			新規	校長	■校長室主導により、実りある協議の場として少しずつ機能し始めたため、2019年度は法人本部からのオブザーバーにも参加してもらい、広報室中心の会の運営に戻した。
新規	広報室	■本年度より広報室が主導するが、企画室とも調整を行いながら進行していく。協議会では各学科の特長や情報を共有し、一体的な募集広報活動が実施できるよう運営していく。			
新規	募集広報協議会	■2020年度生募集活動の進捗を確認しつつ、2021年度生募集活動計画を作成し早めの準備を心がける。			
9 法令等の遵守	1. 関連法令、設置基準等の遵守	○(少年法改正に関して)入学案内書や学生生活ガイドの見直しを検討していただきたい。(30年度総評)	新規	事務局長	■法令遵守や犯罪に巻き込まれないための注意喚起は、入学時から指導を行っている。記載については制作物により検討を行う。
	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■引き続き情報収集に努め、適宜、新しい問題例への対応を周知する。

			継続	学生委員会	■1か月に1回以上のペースで学生委員会メールを送信する。内容は保健室・学生相談コーナーの案内、イベントの案内、ボランティア募集について、SNSの利用上の注意について、個人情報に保護に関する注意喚起を予定している。
	3. 学校評価	○学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間を増やすことが望まれる。	継続	自己点検委員会	■2018年度に引き続き、時間を増やせるように各回の内容を再検討する。
10 社会貢献・地域貢献	1. 社会貢献・地域貢献	○必要な規定や方針等を整備した上で、企業等と連携した教育プログラムの開発にも引き続き期待したい。	継続	校長	■字幕制作・速記者養成科等の一部の学科では、既に企業等と連携した教育プログラムの開発に着手しており、専門課程以外の新規の教育事業においても、積極的に企業等と連携した教育プログラムの開発を推し進めることにしている。
			継続	事務局長	■字幕、登録販売、調剤等の分野について内部・外部との連携により、講座を開発・運営するとともに、日本語教育分野においても外部との連携により、新たな教育プログラムを開発していく予定である。
		新規	校長	■既存の専門課程の学科教育とは別に、夜間・休日の校舎を活用した講座の開発において、既に具体的な検討に着手している。	
			○地域交流や生涯学習においては、参加者や受講者に魅力ある講座の開発や効果的な広報手段の検討を、社会問題への取り組みにおいては、引き続き意識的な取り組みの推進が期待される。	新規	事務局長
	2. ボランティア活動	○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。 ○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。	継続・新規	学生委員会	■学生委員会メールを活用して、随時もしくは少なくとも2か月に1回程度を目安に、ボランティア募集情報を送信する。 ■東専各が公開しているホームページ「ボラ活」にて、他校と共に本校のボランティア活動の様子を紹介する。年に1回更新する。